



細菌検査

細菌検査室では患者さまから採取されるさまざまな材料(便・痰・尿など)の細菌について調べています。例えば、下痢便から下痢を起こす原因となっている細菌がないか検査したり、痰から肺炎を起こす原因となっている細菌がないか検査しています。さらにその菌に対してどんなお薬(抗菌薬)が効くのかについても検査しています。

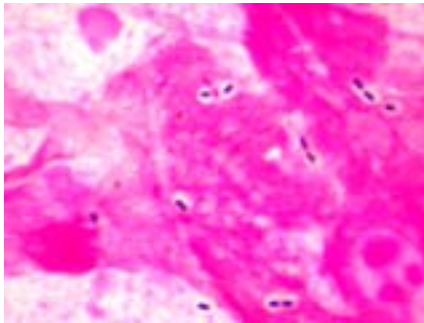


どうやって細菌を検査するの？

いろいろな方法がありますが、少し紹介します

顕微鏡で検査する

細菌は肉眼では観察できないので、染色液を使って細菌を染めてから

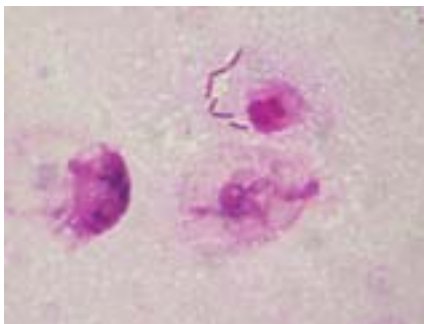


痰を染色したものです。

青色に染まった小さな丸い菌が
2個ずつならんで観察されました。



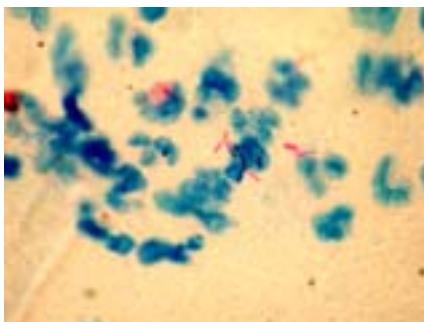
さらにくわしく検査した結果、肺炎球菌でした。



尿を染色したものです。赤紫に染まった細長い
菌が観察されました。



さらにくわしく検査した結果、大腸菌でした。



これも痰を染色したものです。

上の2つの方法とは別の染色をしたものです。
ピンク色に染まった細長い菌が観察されました。



さらにくわしく検査した結果、結核菌でした。

培養して検査する。

材料(便・痰・尿など)を寒天培地にうえて、細菌の発育を観察します。



これは尿を培養した培地です。



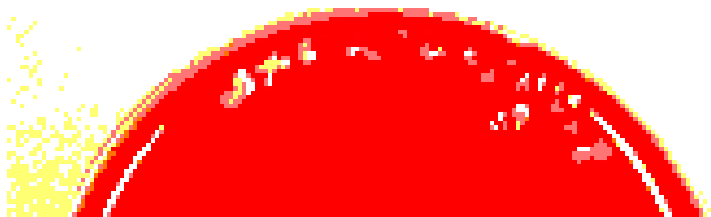
検査した結果、発育している菌は大腸菌でした。



これは下痢便を培養した培地です。



検査した結果、発育している菌はカンピロバクターでした。



発育してきた菌の名前を調べたり、感染症の原因となっていると考えられる細菌については、どんなお薬(抗菌薬)が効くのか調べることができます。